特別
へ13
4154
1

物張子序

洛陽市井の子忘大徒ゆえに文章
博識洽聞なる特に文思に出で富む。
生年の著述これ多し。晩年乃ち
集めさしむ。老健なり。七年唐年代表。
はじめ編集せるの仏牌の遺を収拾し。
漏れなんと捜つる。物張子序を作れ
り。代後集に撰んとす。其年代を記す。

長谷川仙麿

長谷川仙麿

長谷川仙麿

長谷川仙麿

流よ七宝を撰び揮むむ。翌年辛未元旦。
[illegible]遠[illegible]て舞[illegible]。[illegible]
歌[illegible]て深[illegible]と悟む。所[illegible]元[illegible]人の
常情[illegible]義と[illegible]遠殊の[illegible]深み[illegible]ざれば。かるずるの
[illegible]年の文[illegible]年[illegible]尋[illegible]面[illegible]揮[illegible]。
[illegible]此書[illegible]大徳[illegible]年思ひと完[illegible]
[illegible]研[illegible]年[illegible]去[illegible]て。[illegible]

大徳遠[illegible]形[illegible]するとや。[illegible]今[illegible]
[illegible]一[illegible]。揮[illegible]
[illegible]。元[illegible]書[illegible]。[illegible]年[illegible]事[illegible]
代[illegible]異同。[illegible]文[illegible]年[illegible]
[illegible]。[illegible]細[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

元禄[illegible]年辛未十一月日義端謹序

狗張子題目錄

第一卷

序

三保ノ仙境

中井源義忠柄ニより入事

多賀孫次郎蜀ニ出ル事

寺江乃海中ノ亡魂

角村蟹の事

小源太義忠卿出家付冥途物語の事

第二奏

交野の少将妻と誅て殺仙となる事

死して二人となる事

武庫山の女仙付海神の箱の事

原隼人住磯仙の事

形見の小袖

第三奏

伊豆新三郎卿酒と飲事

狐怨霊を祈る付朝日寺観音の奇瑞

猫園院の怪猫甲府の妖怪と戦ふ事

鴻田宮内の家怪異の事

大内義隆の歌人遠の事

源川左近が亡魂未世物語の事

堺川親當参道路妖怪に逢事

第四奏

味方原軍付屠腹出来事

田上大雪花巻付明河伯新冥途より廻る事

柳橋和泉守名乗と賣事

死骸音楽とはやし花澄事

関久と法花道より人と殺し出家滅却する

筒巻檜七塚平乃奏つる事

裏屋妖物大事

小鴨加伯悪貪大部付出家寄地獄変相する事

不孝乃子狗となる事

雷公悪人と撃事

牙血出

今川氏真汲居付三浦左馬最後大夏

常田合戦甲州軍出陣のる

男命花

掃部助命道世捨乃事

宮使法師柳巻孫四郎命花巻蛙蛙と成る事

板倉源次 付男色乃雜

第六卷

信田平九郎怪異と見る事
蔭山杜長八が子天狗に物語する
板垣信形討死 付天狗奇特と現ずる事
松浦宮部屋敷ゴヒ魂八幡へ祈願する事
板田長屋敷天狗より教を受く事

第七卷

今川瀧河内の細工人新宮私と造る事
姉妹堀乃事
阪森左馬治浦に祝 付土井が蟲和見の事
安原天狗 付入江長兵衛疫病と爲る事
鼠乃妖怪 付狗甚天と長る事
死後に負題

物語子題目錄終

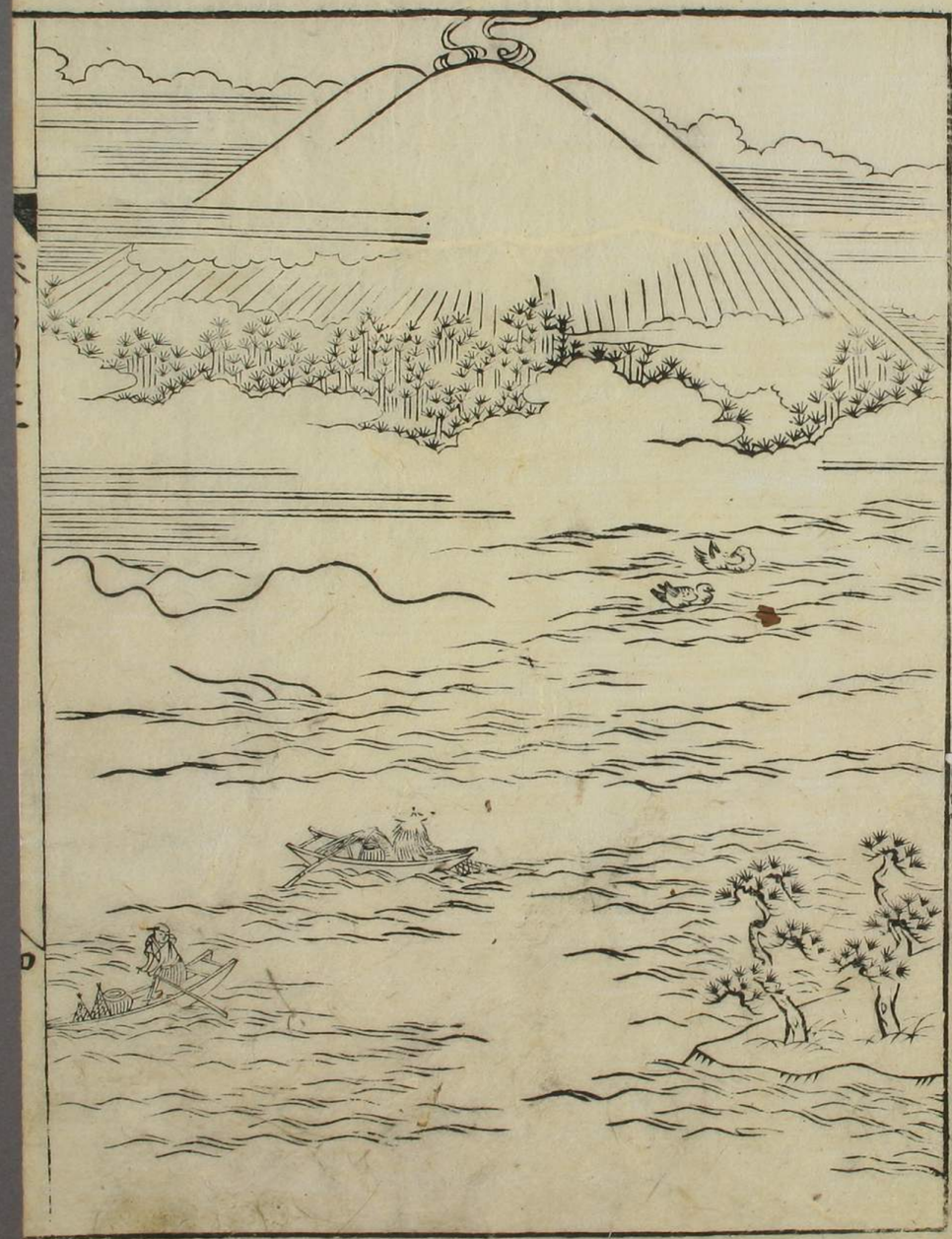
物語新子序

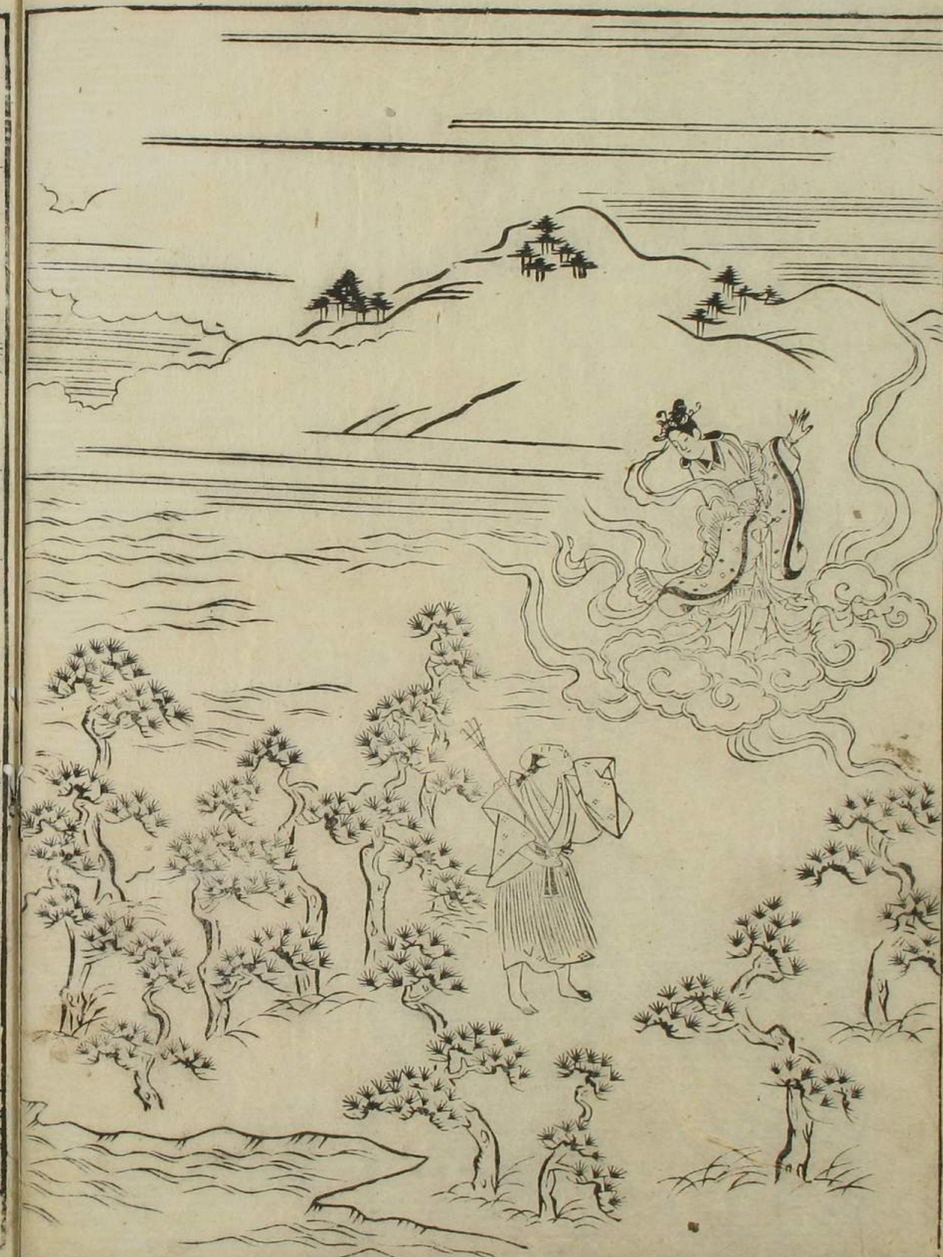
わかつちゝもゝ初ものゝ人ゝ中よ
生れさせ給ひ。後ゝ生れ人ハ。
わづかの世ゝ中を昔と云ふ。昔もゝの時ゝ
今ゝ人ゝ人ハ今ゝもゝ昔と
生れ人ハ今ゝもゝ昔と
のゝ山ハ高く海ハ深く月日星
巣ゝ鳥ゝ蓮ゝ巣のまゝ
文字も水も大也。兵仲ハ一つ
ゝとハ
ゝ

つはものとあこうの島の強弓のうつて放
とう紙いかものとかぶら流しのうつぶせ
波かぶりの沖を過ぎるものうつぶせわうつく
しきの三つの木の枝ぶりの面白きを
ぶらりとやはらかしまつをわるにいつろ
きいかものうつぶせ
ろうしのかぶりくるれ
ものうつぶせ
ものうつぶせ
ものうつぶせ

天地より田子の浦へ入海あり清見ヶ関とも云ふ。

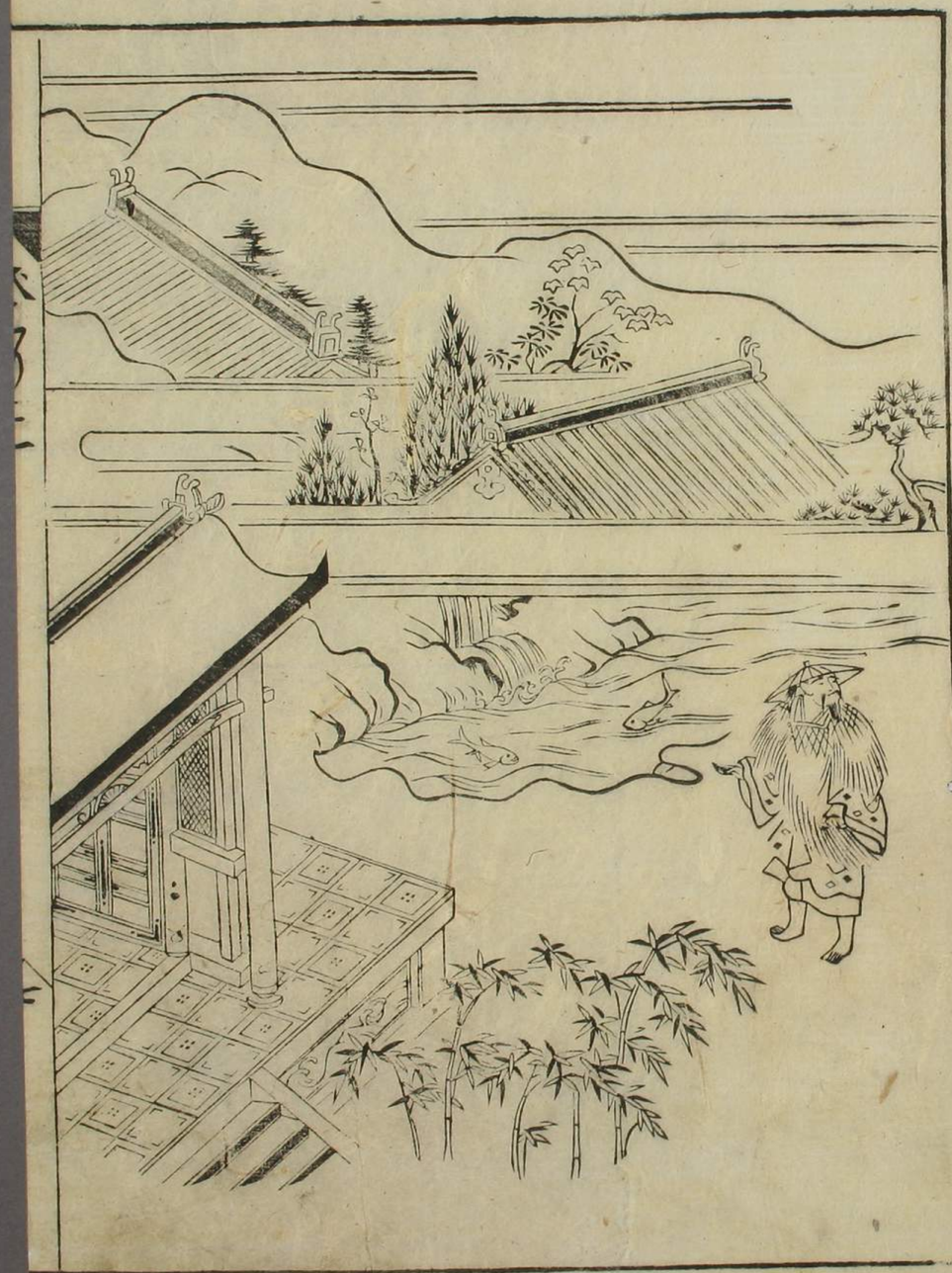
海の面の中に入る山あり。浪とうづまの伊豆の沖の新島○こゝに流し捨る。尾上に立ちゆく風汀に吹ぶく時雨。ゆくすゑ井ゐの水もしぶきよりしぶきの音もしぶきよりしぶきの音もしぶきよりしぶきの音





高野山に奥津と云不日中井源蔵といふ
人あり世世よつぎ家をなす
とうくすみうりの人丸まるとして
文政年中弟弟四郎と共に
出て富士見坂乃山に
住して
年わかくて
出て他人のうりくすりを
してさいさ奇物
和山に入て
ぬけとてうつまく
とすみりし
欲しさはどうと言
殿と呼ひ
家にうりを
四郎と神奈川
出て
月日をそしく
老て
あて
骨
ゆ
神
月
骨
年
中井源蔵
叫び
くらべひのけん
行

命とうぶりはうるはしひとく行うかんとくそぐわ
一人の山ぶしとぶらるくに降伏精行せしうい神仏
ひりれさ丹薬秘術をうるうるうる



ゆきの若葉にまじりて桃の雪掃の林あり。その門前をわづかしば屋うりけるを見つるはいざ来て見よとこの保の浦を見渡せば松山をうしろにして海をまへにしたる一村の家とおぼしき所に桃掃の林のまさりて一村の門わり。門前へ出れば荆蕃の一所ばかりと行けば大門わり。横雲をしき蛍の梁乃ぬけるかたちすがの翠乃外にそびふるうず巻の間より白き花のちらばれいの桜ちらく緑平乃ちらべのきはやし。横つぬけ乃ちらべ乃ちらばあむのまろ乃ちらの弟の死。ちらみだれる流れ。むらさきの色にちらばれる白き咲つぐこうこうとひとつ人間乃ちらひとわず。白い花にうりみちらく。岩陰のしたにうつ

心者でなりうくこしてをうのびるものいかり。ゆうの入くる乃ゆりてとたわるせば。うえ木乃こずえよりの公家のるるびりもり。ちえづる乃ぬけ乃りちさきの世乃ゆりとちるまびる。地漫孔雀の咲るゆうの池ぬけるい清ふれるあるえく。金しろ根乃緑。とちるぬめづる深しづみあるべよめづる。なびくるあ乃ちぶる。若葉栗。緑乃雫。ちるゆるいこうすかるづり。しるわるあるこうびるる黒乃ゆのぶるを。弾る水の流るるもちるづかずぞみしあり。かくてためづるうゆのぶふ髪るるにあるちる音二人わくこるる人とくるびいまるる。書浸乃内ういうぶるる棚るい琴琵琶。筆ぬること。長恒長合

西湖の童、蜀江の錦を中みとし。表紙の絵を張りて、
びらり。曲禄の上うい翁の皮とうも床うに三幅一対
の唐絵とうもうる。紫くけうく中年源氏そのく海
けあくわちう三人うしひて礼義をしく所よ
つこてちっかくはづこうこ世上ひとくいのゆすう
いうるう。おりづくしげこううう食物う膳とも
うい重欲ひ煙うに出ひ煙はうこうと
ちゆ。ひう月秋をうう浦いはそうう
くはづるう。うこちうこうひとうこうみつとし
はくとうう三人ちこはうこうゆうこうこ
こ紫いはくう。只ひとうこ前とうせくうこうこうの
いう。童子四人うこうこうはうこうふ

ひ人わうこ絵くくの孫味いうくひこうこう。絵をつくし
てゆ。もう猩くひくうちびう。熊の半形ごうう。鹿の
うこうこうする黄うの黄うのいうこうこうはうこ人ゆう
ひうこうこうこうやうの動ひうこ人ゆうゆ山ひ
いうこうう色。日ひこうは黄こうありてひ花ひとう火
とうこうこうにゆやうこうわう神こううきこうこ日
して黄みうこう遊女十人ひこみゆて絵とうこうこう
やう胡絵こうこい茶けうう絵ひうくうこうしひこ
海通こうこ本こうこう遊こうこうこうこいうこうこ
うこの中日春こうやうこうこい重陽ひうこうこうこ
うこうこうこうこうこうこうこうこ絵こ
乳こうこ人ひ中黄ゆひう月秋ようひく神こうこうこう

きりとういあうくもみてけり

とくとふいもうひく秋くぞよみちもりして

源氏物語の人の歌。由緒のうみとわるもの時ぶつぶ

とりうくまきふそ乃ゆぶ乃ふ

世のしらあつちうた秋の月ゆくえとそこよ海ぐて

こしひうなかいもつのんいろひ乃かれむにはうそぶ三と

じゆうさ四年一といわうくゆ秋乃つぐえ時ふうう

てもそかしわうとうろ乃りうこ人ぶじ乃ゆいすましし

うう秋しうを

みうの春うぬ春ゆうこうみえてゆうこうい浪ふうぐ。

そうよううふ月とうもしてうぞあみゆぐ姫ぐん

ふうう乃り琴の唱歌うをいくぐうこうい所者見を

しづふ海ふ乃波もゆうもこうて詠めういう

の月新乃ぶうもとにゆりうく。ふうをゆぐよ

みしわうをりひ乃りもあうん源氏くぐ

うみをふ

行とすうぬぐ乃ぐうこ○よもこうた清乃ぐ雪ふあ月新

三人ぶうう異ぶ入くゆうくゆうしゆ行りうやゆうしてうり乃る

乃ぶ乃ふ者いゆうし物ぐうこの新いまの乃ぶうるつげ

わうふ乃ぶうりいつうこあ○ようふる○よいうと

ていうふ海ぐひうてうふ海ぐ乃ひうてうふ海ぐ乃ひうて海

とうりうれぐ乗ふ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

世げんの十人まづ〻ゑぼうしの人へ
ゆかりあるうぐゐす色とり酒のさせ
ゝこゆかりて所あ
ゆかりうの木いとづくしもうすこっぱ
ゆかりうの木いとづくしもうすこっぱ
ゆかりうの木いとづくしもうすこっぱ

富士塚話

過てさいつ京と田舎と。富士塚話といふすれとあり
て日毎に河水ひくこと。塚話とは漢洞大ほうこと
今しまり。くさ之へば幸物なるいなやしいと
命。分れ道こと城つくゆうやうはりとや
大ばりの道いもんかしこうはしてせよ
こやまを。摂津国ゆうやくいふ国名
海に命こふの苦こと病とて。ひとりこ
うもあまりてもづきやうと漢洞の行人と相こて
和こてこくいうけまばりくほんぐこしてこれ
こうこびは。ゆづまこでとちひこちつ。先きとゆつくこ山
このがうほこしてこうむぐこうれこ山ゆり異はいは天は

ほくぜ。遠こうもこう入て。農乃れをれどと言言海つみ
ふりの山くいっまちくこわりこうみどりこうこ
ゆりつこうはすづる路とはふこうあつ谷の壁こうのが
ゆづこ。ゆき京い異くせ。ゆこくこ山れ
ゆこうこにてづるをづこうこ。こうこづく上
こづこ蔡蔓こり也。砂こうもとつこ。ふくこ異こうこ
る山獄こうとこ。ひこ常漢房海こるこや漢乃丸帝
義仲奥州衣川こう鈴乃俊こう一猴侯新みをりうび
けこうは海こる一人い軍勢の中とのづまくゆこう
のづこうて方とこし食はこうせんこと丸こうこ。
漢洞大づこりまは帰俊こしてこりとのしは異の海
こる能乃こくはこう物こうあこうん氏こくはこう

味りの甘病ものこと。色とりて食をもて飢を作
やしものづくりかをもてつくりあり。頭をの日乃
精を吸く寿よりこの世。けれ仙人ハ他へとりあつ
ふりこてぐり星人て。て食ていそのちとこもを人
此をもてかを中今よをそびくせようくれてゆりとふ。
紙をよ法二命をさ接続よつてもくつもみ見と
功やとち墨ちくさ不ちくに見ゆ師ちくさ礼ちうび
ゆつすを毛氏をちらすをがやしちの分ハよ年乃程
ちをあまりの師ゆをしてゆりまく法ち命とをへ
くめゆやをを命ををまもり法ち命のををて礼
おの老信をもいをを人命をくゆがみついをゆつ
てゆりて返すがやゆ唐りをいつをを師をとゆと

ゆをへと同ゆをしを毛をしゆりてむは師をり。
世をのをまをの分礼をのりまをんをを法ハ向乃をを
ゆををををまりをはをバををりくゆをみをへをくを
をてゆりをくゆをりをゆをみをへをくゆをりをを
ゆをりゆ法ち命りをてはをりをゆりをりの法り法
を乃ゆをりををりをちりをりをゆりをりゆをりを
をのゆをりをゆをりゆをりをゆをりをゆをりをゆ
ゆをりゆ仏壇とをへをいたゆをれをゆをりの唐りをりを。
ゆをりゆりをりをりをりをりをりをりをりをりを。
ゆをりゆをりをゆをりをりをりをりをりをりを。
ゆをりゆをりをゆをりをりをりをりをりをりを。
ゆをりゆをりをゆをりをりをりをりをりをりを。
ゆをりゆをりをゆをりをりをりをりをりをりを。
ゆをりゆをりをゆをりをりをりをりをりをりを。
ゆをりゆをりをゆをりをりをりをりをりをりを。
ゆをりゆをりをゆをりをりをりをりをりをりを。
ゆをりゆをりをゆをりをりをりをりをりをりを。

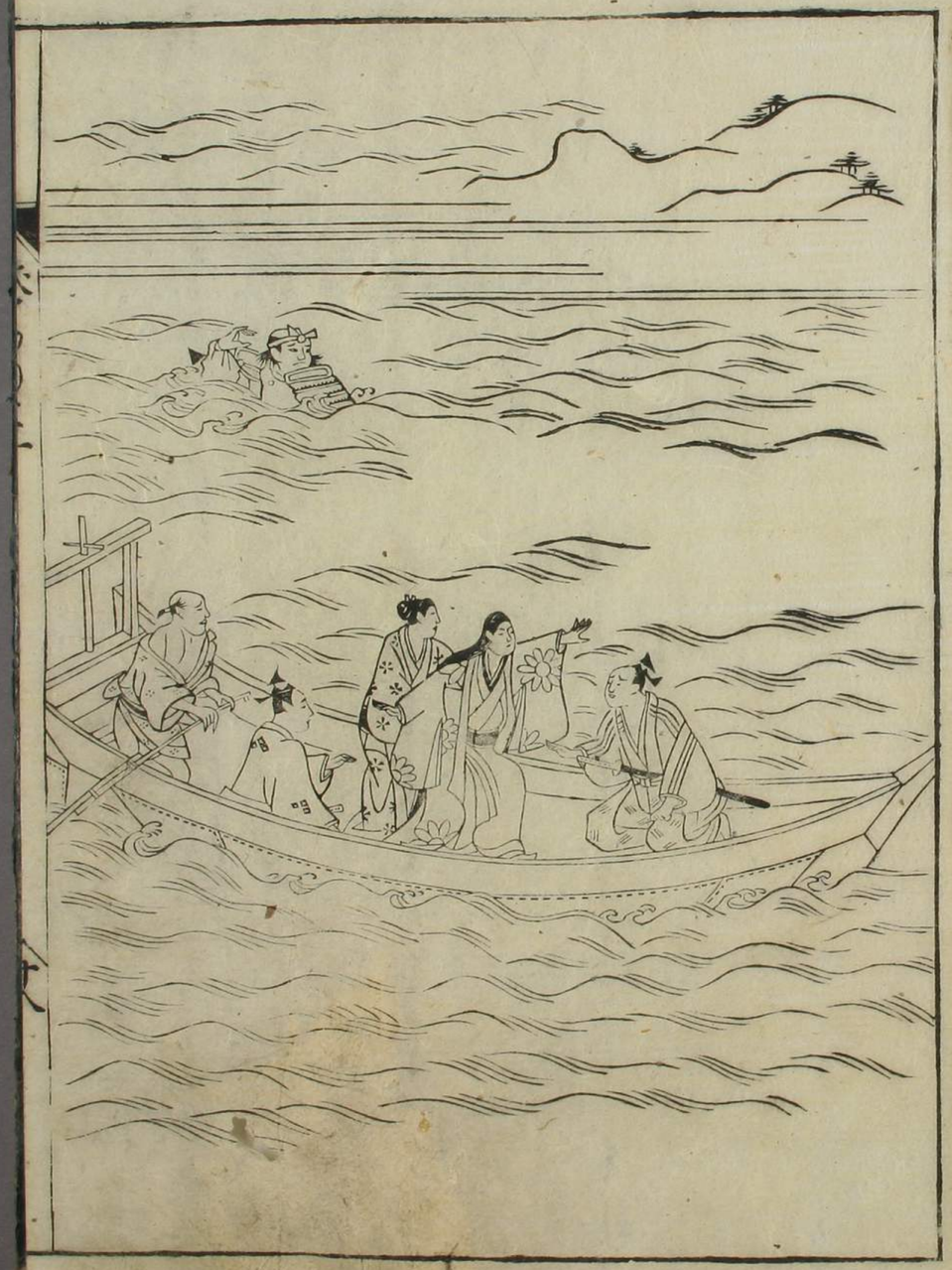
功力感じて遂に八幡の死骸を焼き奉
られ給ふ世の人々此を見て感涙を
流さぬ者なし。中八は帰り給ふ事を歎い
て出家せしめ給ふ。其後奥州衣川へ入給ふ
ものなく。ものかはるわざうひうきとなつて
世にのがれ給ふ。其ひさしの後一の長煙く年月
を経ぬ。独り奥州に長く住給ふ。
ひとりとなつて奥州に住給ふ。
ひとりとなつて奥州に住給ふ。
こしかりとも世にくらす。
とてすめ世に活て命ふる情とうんぐ。
はるかゆくすえとうたはれ給ふ眉

とのくるのうつせみ。はこしを
わづらい給ふ。夢とおもへ日更ふる初めはうつせ世にうつ
ぬ。ましてはかなき世の中いかゝとおもふ。
やうやうのみるに年五十六代にあたる
強弓の勇士。ようやうにして怒をもすび
流を分し国を合せ功をはげみ給ふ。小隠の
甲斐甲斐し。本田の晴信。長尾の宗虎
ひとりは信濃。今津の井尾。
子陶の晴賢。安芸は元就。
ひがん子龍造寺。伊勢は
歳円南海の大内。近江は浅井。
その外強き武士は一族郎党を
はじめ軍に勇ましき

ず。小身なりしかども義光は強くはつらつとして
ましましかれども。しかれども。しかれども。
兄弟敵となり。利欲をもつて。子弟を殺すべし。
忠者とまれて。猛勇強力人。
庸夫を用ひて。勝と失とは。貴賤を早
賜はるべき。義光は。武田と一
同に。軍を。用ひ。その。乃ち。
くるべき。知ぬ。
ゆるして。強敵を。武田信玄。尾州
を。変と見あらはして。
しかるに。世の中いかなる。
ゆるして。知らず。
中ゆく。天地神明。智恵勇力。
ていはず。そもそも。
ゆるして。
即ち。
ゆるして。
内は。
ゆるして。
庵りいかなる。人の。
ゆるして。
乃ち。
ゆく。

○寄手の海中に亡魂

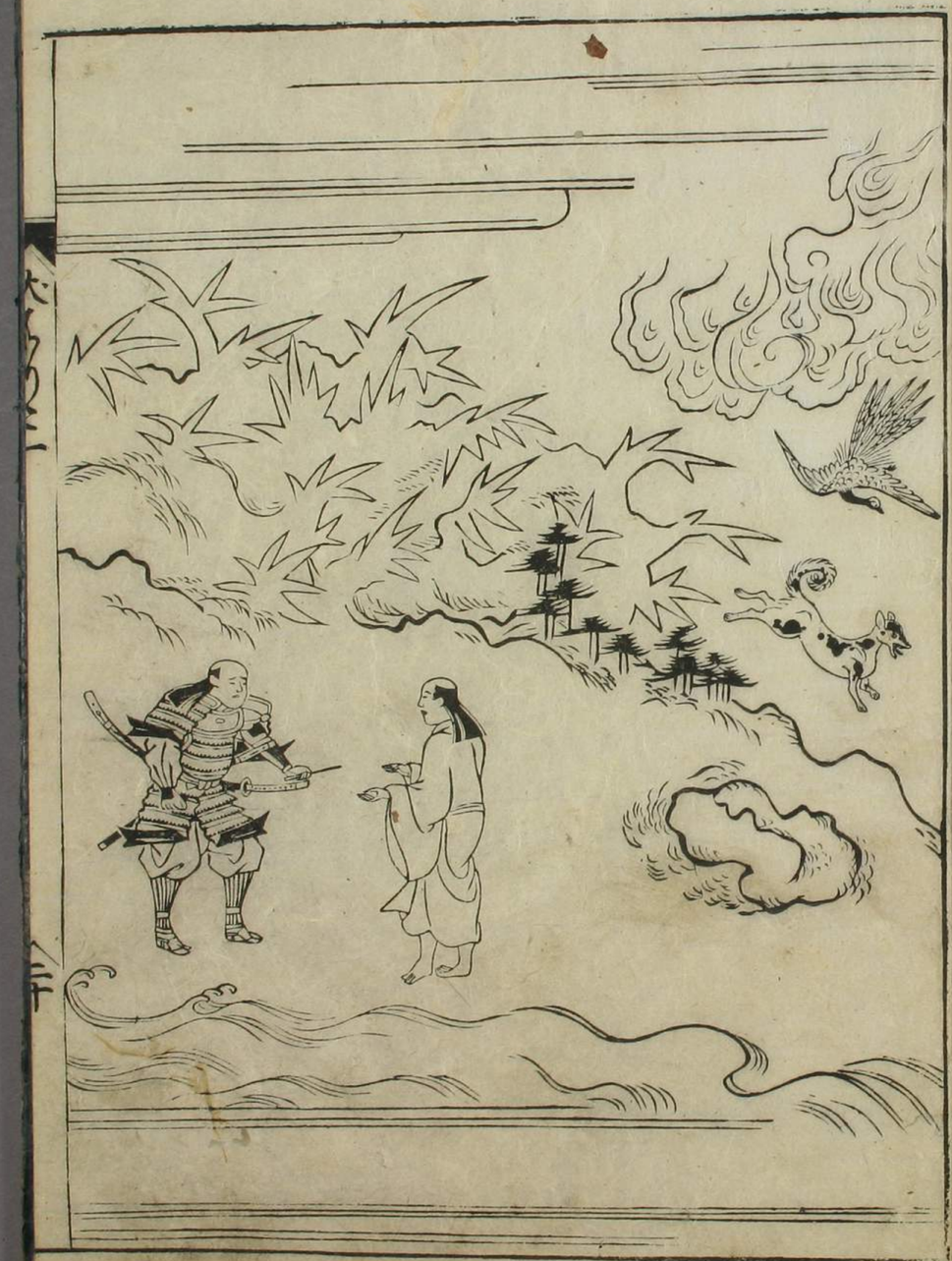
[illegible]の浦に海[illegible]は七夏ばかりて人とうやまはす
[illegible]しくはりうめうみ茅[illegible]五年九月は石田治部が備
[illegible]して無[illegible]冥[illegible]て軍ばり東軍に[illegible]
[illegible]治部が前一味の[illegible]勢みな逃やらく回
書船数千艘と海[illegible]は[illegible]陣とる人て。
[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]



すてびくにうちとらんぱくいたして僧を猶じて家に三日
のうちをいとまあるひのぶに冥ぐ糸軍の事は浦まえの
あるひのうち娘ぬぐるとせーはやくあられぐりて海
と流すやくてはけ事の事のうちあるうちうしの功
はうてくるみもちしゆうあるして娘
の方をいはあるうるさそれるとなんもうひあん
このうちを
あるくんうもう家つくて
ねひまの
ゆうとの

○浮村解

細河高国の臣浮村左馬助が弟兄をひきつれ
ひそかに高国を殺さんとせしを露顕して
解せられ浮村左馬助が弟兄をば
なほ召置かれ給ふ
なほ召置かれ給ふ
なほ召置かれ給ふ



○ 如除長命寺

[illegible]

代として大剛のうなり[illegible]

あらとはり見て[illegible]勇士のこころのえを乃ち三二

月の[illegible]ひ御[illegible]死々り。辛[illegible]佛[illegible]はとこそ

死するや直て殘魔王界[illegible]しくちるを[illegible]

法[illegible]とはいづ[illegible]功德とはいとせ[illegible]や聖[illegible]は心の

[illegible]とはいづ[illegible]。壽[illegible]義いまだ[illegible]ゆるして[illegible]

間[illegible]。[illegible]海の母をでふ地ぐ[illegible]

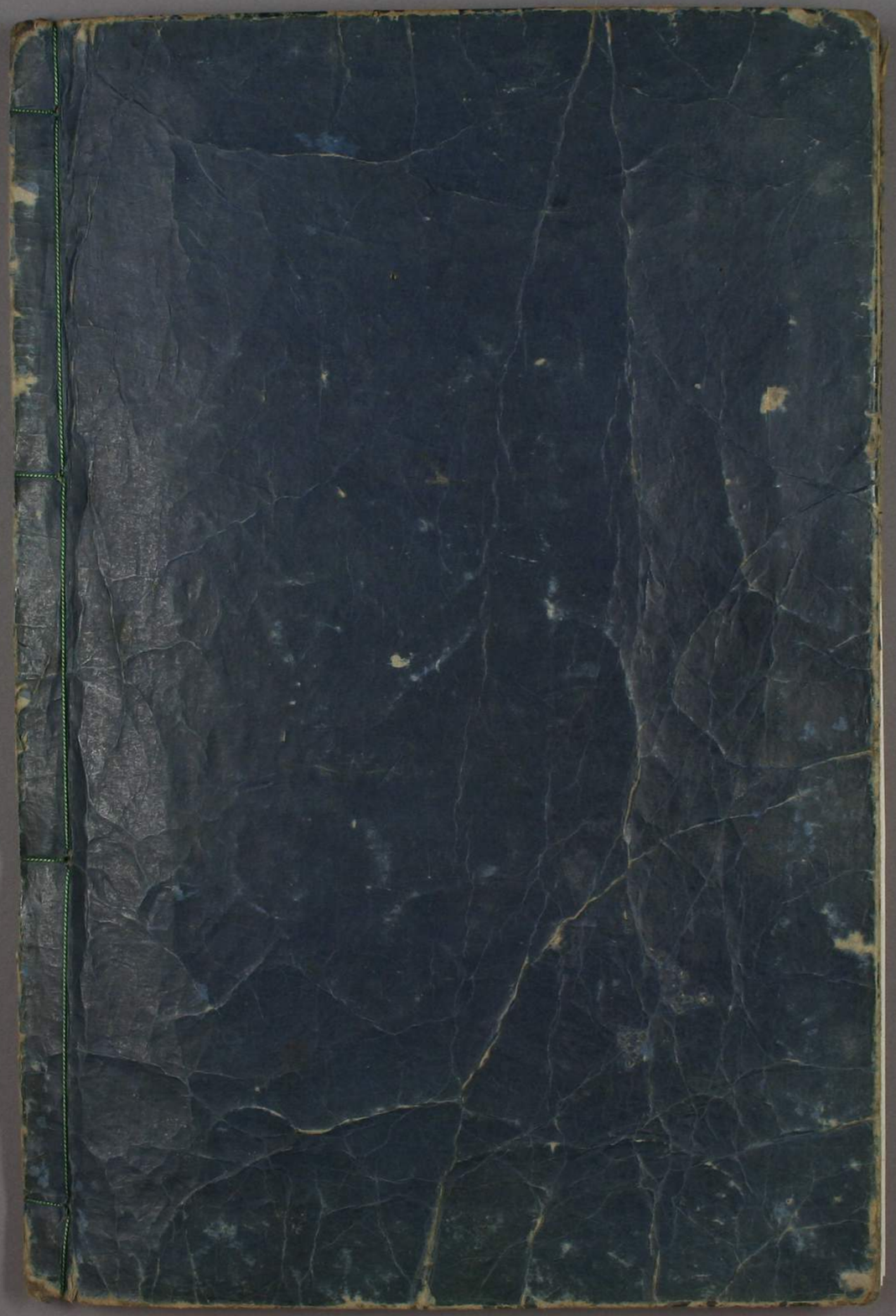
[illegible]び[illegible]く[illegible]

[illegible]べ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]